

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	262人	社会	262人	数学	262人
	理科	260人	英語	260人		

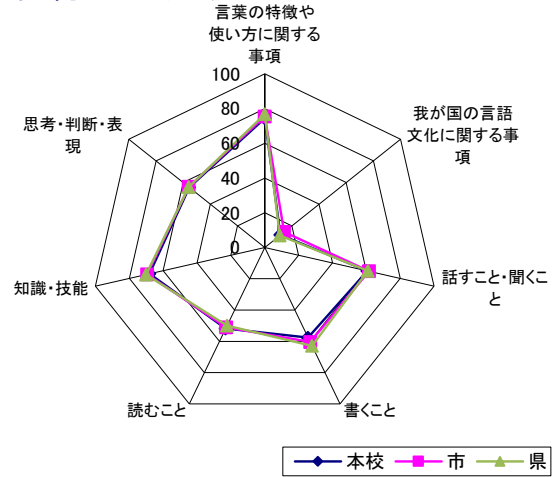
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	74.4	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	11.5	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	60.7	61.6	60.9
	書くこと	57.6	60.4	62.9
	読むこと	51.8	51.0	49.9
観点	知識・技能	68.1	69.4	70.1
	思考・判断・表現	55.5	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

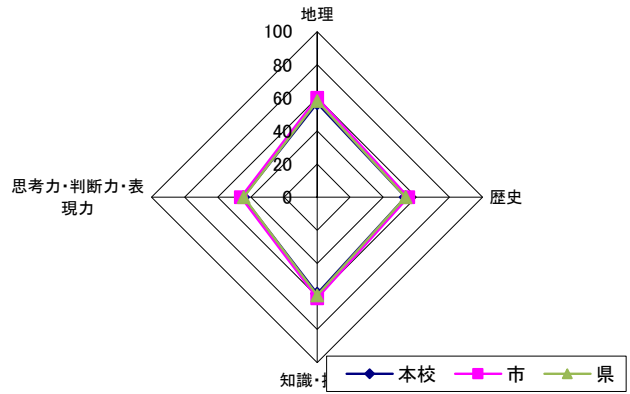
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも2.3ポイント、市の平均よりも1.1ポイント低い。</p> <p>○漢字を読む問題で、「換気」は県の平均を0.4ポイント、市の平均を0.6ポイント上回っている。</p> <p>○文節の関係が同じ文を選ぶ問題は、県の平均を0.9、市の平均を0.8ポイント上回っている。</p> <p>●文を単語に分けて抜き出して書く問題では、市の平均を1.8ポイント上回っているが、県の平均正答率を1.2ポイント、市の平均を下回っている。</p>	<p>・漢字の読みは理解できているが、書きにおいては不十分であった。</p> <p>また、単語が品詞に分類されることなどについて再度確認する必要がある。それぞれの単語のもつ文法的な役割とともに、それぞれの品詞が文のどのような成分になるかなどについても理解する必要があると考えられる。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>本校の平均正答率は、県の平均を0.3ポイント上回っているが、市の平均よりも2.8ポイント低い。</p> <p>●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書くの問題で、市の平均正答率を2.8ポイント下回っている。</p>	<p>・歴史的仮名遣いを問われていても、古語の意味を解答してしまう生徒が多い。そのため、問題をよく読み適切に解答できるよう今後も指導していく必要がある。</p>
話すこと・聞くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均を0.2ポイント、市の平均を0.9ポイント下回っている。</p> <p>○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題は、県の平均を1.4ポイント、市の平均を1.5ポイント上回っている。</p> <p>●話し手の話し方として適するものを選ぶ問題は、県の平均を5.4ポイント、市の平均を4.9ポイント下回っている。</p>	<p>・必要に応じて記録しながら話の内容を捉えることはできているものの、自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えることにおいては理解が不十分であった。根拠や構成の理解は、「書くこと」の力にもつながるため、今後重点的に指導する。</p>
書くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均を5.3ポイント、市の平均を2.8ポイント下回っている。</p> <p>●観光客を呼ぶためのAとBのポスターについて、8行から10行の間で文章を書く問題は、県の平均を7.6ポイント、市の平均を5.5ポイント下回っている。</p>	<p>・無回答率は、県と市の平均と同等である。しかし、「書くこと」への苦手意識が強く、なかなか進んで文章が書けない生徒が多い。</p> <p>まずは、基本の形に沿って作文を書く練習から始める。そこから、自分の考えが明確になるように、話の構成を考えたり、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫したりできるように指導する。</p>
読むこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均を1.9ポイント、市の平均を0.8ポイント上回っている。</p> <p>○文章の内容を説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く問題は、県の平均を3.2ポイント、市の平均を1.9ポイント上回っている。</p> <p>○文章で述べられていることを参考にした内容として適するものを選ぶ問題は、県の平均を3.2ポイント、市の平均を1.9ポイント上回っている。</p>	<p>・情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈することは十分にできている。また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするともできていると考えられる。今後も「読むこと」の力を伸ばしていくことで、その他の力の伸長につなげていきたい。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	56.8	60.1	58.1
	歴史	53.5	55.1	53.5
観点	知識・技能	58.3	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	44.7	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

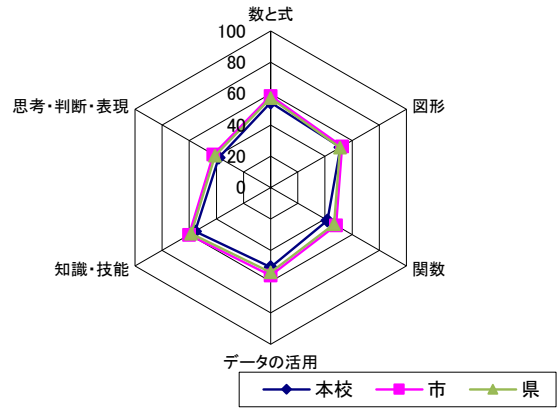
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は、県平均とほぼ同じで、市平均よりも3.3ポイント低い。</p> <p>○日本の固有の領土と、領土をめぐる問題について考察する問題では、県の平均正答率より1.1ポイント高く、日本の領域についての理解が深まっている。</p> <p>○地図上に示される赤道の位置についての理解をもとにした読み取りが県の平均値正答率より1ポイント高く、普段の授業において、地図帳を意識的に活用した成果であると考えられる。</p> <p>●アメリカ合衆国の気候と農業分布の関係について、複数資料をもとにした考察が、県の平均正答率より5.8ポイント低い。</p> <p>●ヨーロッパ州で見られる特徴的な地形についての理解をもとにした読み取りが県の平均正答率より4.2ポイント低い。</p>	<p>・今後も授業における複数資料の読み取りや、課題に対する考えのまとめ、協同的な学びを取り入れ、理解を図れるようにする。</p> <p>・世界の諸地域の学習では、写真資料や映像資料を用い、より実際の様子を感じられるように工夫する。</p> <p>・雨温図をもとにした世界各地の気候の特色のまとめを行い、雨温図からどのような特徴があるかを判断できるようにする。</p>
歴史	<p>平均正答率は、県平均と同じで、市平均よりも1.6ポイント低い。</p> <p>○律令国家における人々の負担について、複数資料をもとにした考察が、県の平均正答率より8.2ポイント高い。</p> <p>○大和朝廷と前方後円墳の分布の関わりについて、資料をもとに考察する問題では、県の平均正答率より7.1ポイント高く、古代の日本について知識が定着している生徒が多い。</p> <p>●鎌倉時代についての理解が、県と市の平均正答率より全体的に低く、時代の特色をあまり理解できていない。</p> <p>●活用問題の記述解答は、県の平均正答率と大きく変わらないが、全体的に記述する力が弱い。</p>	<p>・歴史的な事象による社会の変化や与える影響についての理解や考察が弱いので、1つ1つ分断して理解するのではなく、大きな流れとして捉えられるように指導を続けていく。そのために、年表を用いたり、関連図等を用いて理解を促したい。</p> <p>・重要語句について小テストなどを行い反復練習を繰り返して、基礎的な知識の定着を図る。</p> <p>・記述問題に苦手意識を持っている生徒が多いため、授業で考えをまとめさせる、振り返りを書かせる、書いたことを小グループで発表するなどを行い、表現する力を養っていきたい。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	54.3	58.6	57.2
	図形	51.4	52.6	51.1
	関数	41.8	48.2	46.8
	データの活用	50.8	56.1	54.1
観点	知識・技能	55.7	60.2	58.6
	思考・判断・表現	38.3	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

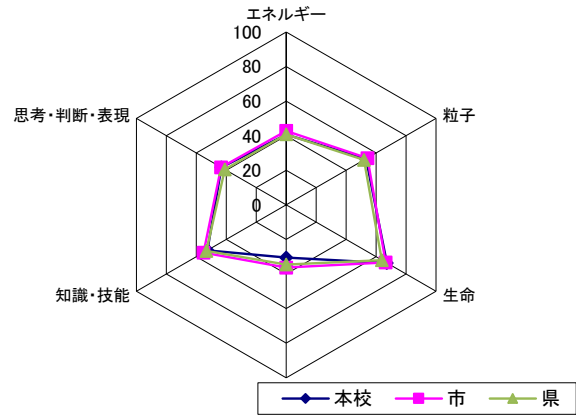
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも2.9ポイント、市の平均よりも4.3ポイント低い。</p> <p>○正負の数の大小関係の問題の正答率が、県の平均と比べ1.8ポイント、市の平均と比べ2.2ポイント高くなっている。</p> <p>●文章題に対し1次方程式を立式する問題の正答率が、県の平均と比べ9.2ポイント、市の平均と比べ15.9ポイント低くなっている。</p>	<p>・1次方程式の利用において、文章を読んで、それに基づき立式するところに課題が残る。授業では、2次方程式の利用にて、練習問題に取り組む機会を十分に設けながら、補助教材や単元テスト等を利用し、力の定着を図っていく。</p>
図形	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも0.3ポイント高く、市の平均よりも1.2ポイント低い。</p> <p>○垂直二等分線を利用した作図の問題の正答率が、県の平均と比べ8.6ポイント、市の平均と比べ3.9ポイント高くなっている。</p> <p>●おうぎ形と円の面積の関係についての問題の正答率が、県の平均と比べ4.1ポイント、市の平均と比べ6.0ポイント低くなっている。</p>	<p>・垂直二等分線や角の二等分線など、基本的な作図についての知識は概ね身に付いていると考えられるので、自主学习等で復習するよう促し、更なる知識の定着を図る。また、おうぎ形の問題については、AIDリル等を活用し、おうぎ形と円の関係を振り返りながら、繰り返し問題に取り組む、知識・技能を高めていけるようにする。</p>
関数	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも5.0ポイント、市の平均よりも6.4ポイント低い。</p> <p>●反比例の式についての問題の正答率が県平均と比べ10.9ポイント、市平均と比べ13.2ポイント低くなっている。</p> <p>●比例の式からグラフをかく問題の正答率が県平均と比べ12.8ポイント、市の平均と比べ15.7ポイント低くなっている。</p>	<p>・1次関数の授業において、式と表とグラフの関係について、理解を深められるよう丁寧に説明する。そこから、比例・反比例について振り返りができるような機会を設ける。</p>
データの活用	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも3.3ポイント、市の平均よりも5.3ポイント低い。</p> <p>○結論を出すために必要なデータを選ぶ問題の正答率が、県平均と比べ2.1ポイント、市平均と比べ0.4ポイント高くなっている。</p> <p>●度数分布表から相対度数を求める問題の正答率が、県平均と比べ14.4ポイント、市平均と比べ17.3ポイント低くなっている。</p>	<p>・確率の授業において、相対度数について復習し、その求め方だけでなく、その値の持つ意味を理解させる。また、身の回りの事例なども参考にしながら、記述したり説明したりする活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	40.7	42.8	40.8
	粒子	53.3	54.2	52.0
	生命	67.2	66.4	63.8
	地球	30.4	36.2	34.5
観点	知識・技能	52.6	55.2	53.3
	思考・判断・表現	43.3	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

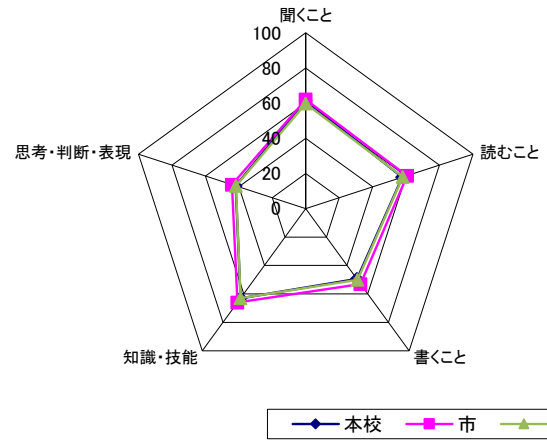
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも2.1ポイント、市の平均よりも0.1ポイント低い。</p> <p>○虚像と虚像が見えたときの光の道すじを作図する問いは県の平均正答率を10.2ポイント上回っている。</p> <p>●スクリーンに映っている像を選ぶ問いは、県の平均正答率よりも1.4ポイント下回っている。</p> <p>●2つのばねの長さが等しくなるときのばねに加えた力を求める問いは、県の平均正答率よりも15.1ポイント下回っている。</p> <p>●誤った考察を正しく書き直す記述式の問いは、県の平均正答率よりも2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作図の問題は県や市の平均を大きく上回っており、無回答率も低かった。授業で習った光の道すじの3要素をしっかりと抑えることができています。 ・エネルギーには音や弦の問題もあったが、全体的な正答率は光や凸レンズの方が低い。正答率が低く、無回答率が多かったのが記述式や計算問題であった。特に計算問題は県や市ともに正答率が低く、計算の公式や何を求めて求めるか理解できていない生徒が多いように見える。 ・以上の点から計算問題に慣れるよう指導をしていきたい。
粒子	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも1.3ポイント高く、市の平均よりも0.9ポイント低い。</p> <p>○沸騰石を入れる理由と沸点の名称を選ぶ問いは正答率が86%を超え、県の平均正答率を3.4ポイント上回っている。</p> <p>○硝酸カリウムの結晶の質量とそれを求める方法を答える問いは県の平均正答率を6.6ポイント上回っている。</p> <p>●二酸化炭素と酸素を特定できる操作を選ぶ問いは、県の平均正答率よりも3.4ポイント下回っている。</p> <p>●塩化ナトリウム水溶液をしばらく放置したあとの粒子のモデルを選ぶ問いは、県の平均正答率よりも6.1ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率が高かった硝酸カリウムの結晶の質量とそれを求める方法を答える問いは、正答率が29.6%、無解答率が7.7%と計算問題に挑戦はしているが間違った解答が多かったように見える。計算問題の慣れはエネルギー同様に低いと見える。 ・無回答率が高かったのは、アンモニアを上位置換法で集める理由を気体の性質にふれて答える問いであり、14.6%であった。性質は理解しているが記述式で答えることに苦手意識が見られる。 ・以上の点からエネルギー同様計算問題に力を入れ、2学年の原子・分子に備えて力がつけられるようにしたい。
生命	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも3.4ポイント、市の平均よりも0.8ポイント高い。</p> <p>○胚珠の名称とイチヨウの雄花を選ぶ問いは正答率が50.0%であり、県の平均正答率を10.6ポイント上回っている。</p> <p>○昆虫類ではない動物を選ぶ問いは正答率が78.1%であり、県の平均正答率を9.3ポイント上回っている。</p> <p>●イモリの子のときと親のときの生活場所について答える問いは、県の平均正答率よりも2.3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県や市の正答率と大きく差が離れている項目が少なく、理科の分野では生命を得意とする生徒が多く見られる。無解答率も低く、他の分野より知識として定着しているのも見られる。 ・正答率に対し無解答率が高かったのが、誤ったまとめを正しく書き直す問いで、正答率が63.9%、無解答率が11.9%であった。記述式の問題として難易度は低かったが、文章としてまとめるのが苦手な生徒が理科を通じて多くいるように見られる。 ・以上の点から知識の定着を図り、記述式の問題に慣れる必要性がある。
地球	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも4.1ポイント、市の平均よりも5.8ポイント低い。正答率は全分野の中で一番低かった。</p> <p>○火山をマグマのねばりけが小さい順に並べ替える問いは県の平均正答率を0.7ポイント上回っている。</p> <p>●無色鉱物の名称と無色鉱物を多く含む深成岩の名称を選ぶ問いは、県の平均正答率よりも8.2ポイント下回っている。</p> <p>●示準化石の名称を答える問いは、県の平均正答率よりもポイント13.2下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の全分野の中でも正答率が低かった地球(地学分野)は直近で習った内容ということもあり十分に復習ができておらず、定着していない。 ・正答率が低く無解答率が高かったのは、示準化石の名称を答える問いと、マグニチュードと震度についてあてはまる言葉を選ぶ問いであり、どちらも共通して対となる単語が存在し、そちらと間違えて逆に覚えていたり、名称のみ覚えて詳細が定着していないように見える。 ・以上の点から地学分野として1学年の内容が2学年に結びつきにくいことも含めて、知識定着のために復習を組み込んでいく必要がある。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.4	62.0	59.7
	読むこと	57.7	60.6	58.0
	書くこと	49.5	53.1	50.1
観点	知識・技能	63.1	66.0	63.0
	思考・判断・表現	41.9	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均よりも1.8ポイント高いが、市の平均よりも0.6ポイント低い。</p> <p>○対話の内容を聞き取り、適切に回答をしているものを選ぶ問題では、県の平均正答率よりも7.2ポイント高い。</p> <p>●英文を聞いて、適切に表している絵を選ぶ問題では、県の平均正答率よりも3.2ポイント低い。</p>	<p>・授業内でのクラスルーム・イングリッシュの使用頻度を高めることで、生徒が英語を聞く機会を増やしていく。</p> <p>・英文を聞き、概要を捉えたり必要な情報を把握するような場面を増やしていく。</p>
読むこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均とほぼ同じだが、市の平均よりも2.9ポイント低い。</p> <p>○対話から必要な情報を読み取る問題では、県の平均正答率と比べて、3.1ポイント上回っている。</p> <p>●英文を選んで概要を理解する問題では、県の平均正答率よりもそれぞれ1.6ポイント下回っている。</p>	<p>・授業内の会話活動を通じて、語形や語法の知識・理解を定着させる。また、キーフレーズとなる語形・語法を使って、自分のことを表現する英文を書く機会を多く設ける。</p> <p>・語形や語法の知識を定着させた上で、まとまった英文から必要な情報や内容を読み取る練習機会を増やす。</p>
書くこと	<p>本校の平均正答率は、県の平均とほぼ同じだが、市の平均よりも3.6ポイント低い。</p> <p>○与えられた情報に基づいて、三人称単数現在時制の肯定文を書く英作文の問題では、県の平均よりも6.1ポイント上回っている。</p> <p>●英文を正しい語順で書く問題では、県の平均よりも2.6ポイント下回っている。</p>	<p>・正しい語形や語順を身につけさせた上で、簡単でも自分のことについて表現する(話す・書く)機会を授業内で多く設ける。</p> <p>・定期的な単語テストの実施などで、語彙力を身につけさせるような活動を行い、生徒が自分で学習できるような方法を指導していく。</p> <p>・書くことに苦手意識を感じている生徒が多いため、授業の最後にまとめとして書く活動を取り入れ、定着をはかる。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分で計画を立てて勉強している。」「学校の宿題をしている。」「学校の授業の予習をしている。」「学校の授業の復習をしている。」「家でテストで間違えた問題について勉強している。」「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている。」など、家庭学習に関わる項目では、肯定的な答え「はい」「どちらかといえば、はい」と回答している生徒の割合が高く、県の平均と同等か上回っている項目も多い。特に「授業の予習をしている。」では、県平均を3.2ポイント上回った。今後も自習学習への取組を推奨し、その内容や質を高めていきたい。

○「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中に役立つと思う。」や「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の質問では肯定的に答えた生徒の割合が高く、いずれも県や市の平均を上回っている。社会体験学習や各教科での指導の成果であると考えられる。今後も一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、自らの生き方を探求するとともに、適切な進路の選択・決定ができるよう指導・支援に努めていきたい。

○「学校の決まりを守っている」「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」という質問では、9割以上の生徒が肯定的に答えていて、規範意識や思いやりの心をもっている生徒が多い。今後も学校と家庭、地域が連携して、指導や称賛を繰り返し行い、豊かな心を育んでいきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という質問では、昨年度と比較すると肯定的な回答は12%上昇し、県の平均と同等であったが、まだ改善の余地がある。今後も生徒を前面に出し、見守り・見届ける指導を続けるとともに、グループ・エンカウンターを取り入れた授業実践などを通じた、互いを認め合い、学級への帰属意識を高めるような学級作りを行ってきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と回答している生徒が7割を超えている。グループ活動などを積極的に行っている一方で、じっくりと自分の考えを練り上げる作業に苦手意識が強い生徒が多い。まずは書き方の模範を示すとともに、各教科において、書く力の育成に引き続き努めていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成 ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自主学习ノート」の運用と適切な学習課題の提示による家庭学習の充実 ・AIDリル、学校図書館の活用 ・ティームティーチングによる効果的な指導法の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答の割合が、県平均を1.9ポイント上回っている。 ・「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答の割合が、県平均を1.4ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・提供された情報や資料に基づいて、自分の考えや意見を表現する問題において、正答率が県平均を下回っているものがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力や表現力を育成するために、朝の読書を推進し、授業での図書の活用や図書室の積極的な利用を推進する。 ・授業において、「自分の考えを書く活動」と「話し合い活動」を位置付けて、級友との対話を通じて、自らの学びを深めることができる生徒の育成を目指す。